

日本産業衛生学会

近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会
 (事務局 圓藤吟史)
 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3
 大阪市立大学医学部環境衛生学教室内
 F A X 06-6646-3160
 発行責任者(地方会長) 堀口俊一

第51回近畿地方会総会を迎えて

(平成15年度総会会長挨拶より)

地方会長 堀口俊一



昨年の総会では地方会の50周年を記念する幾つかの行事がもたれました。今年は今後の地方会のさらなる発展に向かって、新たな出発の年にしたいと願っています。

国際労働衛生会議(ICOH)の科学委員会の一つ「職業性および環境性疾患予防の歴史」委員会は、主要原則として次の言葉を掲げています。「過去を無視する人は根元を持たない人で、根元を持たない人に未来はない」(松下敏夫訳)。この原則に関連して、20世紀は人類にとってどのような時代であったか、また20世紀から21世紀へ、人類はどのように進んで行くのであろうかということ、グローバルに考えてみたいと思います。ある哲学者は、20世紀は人類史上、二度の世界大戦による「危機」の時代であったし、他方、二つの巨大国家による世界管理の「実験」の時代であったと総括しています(鷺田清一)。また、ある新聞社の取材班の刊行物には、20世紀は数千万にも上る人命を失った二度の世界規模の戦争と、その後の半世紀にも及ぶ冷戦とによって、まさに「戦争の世紀」であった。他方、1901年に一回目の受賞が行われたノーベル賞に刺激されたかのように、科学はミクロの世界から宇宙の果てまで解明してゆき、「科学技術の世紀」であったと述べています(産経新聞取材班)。さらに、ある作家は、20世紀は幼児性理想主義がまかり通った時代であった(ここに幼児性とはオール・オア・ナッシングで、その中間の曖昧な部分の存在意義を認めないこと)。しかし、21世紀は円熟した大人の見方によって、いささかの悪を容認しながら、そこに不純な安定を見出す時代になるかも知れないと述べています(曾野綾子)。この問題に関しては各自の立場から、考察に値する意見をお持ちのことと思います。

さてここで、私どもの専門とする産業保健の分野に目を転じてみましょう。20世紀当初は日本の産業革命が始まった頃に当たります。その後、第二次大戦勃発まで産業は大いに発展しましたが、大戦によって甚大な打撃を受けました。しかし、その中から驚異的な復興を果たして、経済発展期をもたらしました。ところが、平成期に入って所謂バブルが弾け、現在まで経済不況の脱却ができぬままの状態が続いています。このような産業の歴史区分の中で、先人は産業保健の発展向上の実現に努めてまいりました。これから21世紀の中を私どもは進んで行かなければなりません。ところが、未来予測は非常に難しい問題であります。それには、これまでの成果に基づいて近未来に取り組むべき課題を設定して、見直しを行いながら、試行錯誤的に進むよりほかないと考えます。

わが国では「21世紀の労働衛生戦略協議会」が優先18課題と研究展開のための方策を示しています。その中の重点領域Ⅲに「リスク評価と労働安全衛生マネジメントに関する研究領域」が挙げられております。これに関連して、本日の基調講演「産業保健とリスクマネジメント」、また、シンポジウム「労働安全マネジメントシステム」はまことに有意義なテーマであります。本日ご参集の会員諸氏には講演とシンポを、職場の実践活動に活かしていただきたいことを念じて、私の挨拶といたします。



>>>>>> 第51回近畿地方会総会 議事録 <<<<<<

日時 平成15年5月31日(土) 13:00~13:50

会場 大阪市立大学医学部学舎 4階大講義堂

1. 近畿地方会会長(堀口俊一)挨拶
2. 日本産業衛生学会理事長(藤木幸雄)挨拶
3. 物故会員の報告
 - 平成14 5月 山本 久生 氏
 - 9月 瀬良 好澄 氏
 - 平成15 3月 山下 五郎 氏
4. 佐野 敦先生(松下電子部品(株)本社)を議長に選出
5. 総会の成立を確認
 - 出席者62名(委任状482名)
 - 会員数1370名の内、出席者が会員の1/5で総会成立
6. 議事署名人の選出
 - 加藤 俊夫先生(三菱電気伊丹・赤穂地区統括事務所健康増進センター)
 - 岡田 治子先生(大阪産業保健推進センター)
7. 議題

(1)平成14年度事業報告

圓藤理事より報告

(2)平成14年度決算報告(監査報告)

圓藤理事より報告と以下の補足説明

○14年度の収入の部において、雑収入として第75回日本産業衛生学会(神戸)および50周年記念事業委員会より返金があった。

ついで住野監事より14年度監査報告がされた。

(質問)

西山勝夫氏(評議員)より、平成13年度理事長選挙の広報活動に関わる支出を近着の「謹告」では、平成14年度支出することになっているが、今回の監査の処理について問題はなかったかの質問があった。

(回答)

住野監事は、閲覧した資料の中には該当する資料はなかったと回答

圓藤理事から、当該の広報活動については未だ支出しておらず、本総会で議論された後に、平成15年度の支出としたいと回答

(質問)

西山評議員から、「謹告」の中で2回の郵送にかかった費用は平成14年度の会計から支出するものと書かれてあるのに、説明および提案がなされないのは何故か。

(回答)

圓藤理事から、「謹告」は平成14年度6月25日に作成され、平成14年度中に処理する予定であったが、「謹告」の発送が遅れて平成14年度中に支出はできなかった。今日審議した上で平成15年度会計で処理する予定であると回答があった。

西山評議員からは反対の意見が述べられたが、会場表決により、拍手で幹事会提案が承認された。

平成14年度決算および監査報告も拍手により承認された。

(3)平成15年度事業計画(案)

圓藤理事より説明

会場より拍手で事業計画が承認された。

(4)平成15年度予算(案)

圓藤理事より予算案の訂正と説明

平成15年度(案)の前期繰越金を4,964,264円に、予備費を3,097,919円に訂正

平成15年度予算案について拍手で承認

(5)第43回近畿産業衛生学会(兵庫)進捗状況について

学会長の井口弘兵庫医科大学衛生学教室教授より報告
日時 平成15年11月8日(土)

会場 兵庫医科大学

(6)第44回近畿産業衛生学会開催(平成16年)について

圓藤理事より、平成16年度は滋賀県が開催予定地であるので杉本幹事を中心に協議決定する予定との報告

(7)その他

1) 3部会報告

I. 産業医部会

岡田理事より報告

II. 産業看護部会

植本理事より報告

III. 産業技術部会

河合幹事より報告

2) 平成13年度理事長選挙について

西山評議員より、

I. 「謹告」では、事実経過とそれに対する措置がかかれておらない。さらに昨年6月につくられた「謹告」が何故1年も遅れて発送されたか理由の説明がない。

II. 近畿地方会総会として「謹告」を作成するに至った経緯を本部理事会に報告すべきと提案する。

圓藤理事より以下の回答がされた。

I. の件については、西山評議員より会長、総務担当理事および当該の広報担当責任者に誤りを直接指摘されたことにより、広報担当責任者は直ちに全地方会員に訂正の措置をとっている。適切な措置をとったことにより責任はとれていると判断している。また、幹事会としては、昨年の総会・評議員会で会長が事実関係に関係書類をもとに説明し、謝罪したことにより地方会長としては十分責任をとっていると思う。また、再発防止についても十分協議している。

II. については、地方会内部の問題であるから地方会で議論し、審議するのが適切であろうと考えている。

西山評議員からの申し出により、会場に幹事会の結論に対して採決が求められた結果、拍手によって承認された。

>>>>>>>>> 第51回近畿地方会総会 <<<<<<<<<<

基調講演・シンポジウム 報告

和歌山医大・衛生 宮下和久

第51回近畿地方会総会に引きつづき、基調講演・シンポジウムが大阪市大医学部大講義室において、90余名の会員の出席のもと開催された。

基調講演として「産業保健とリスクマネジメント」と題して、大阪ガス株式会社健康開発センター・岡田邦夫先生を講師として、大阪医大・河野公一教授の座長のもと行われた。従来の健康管理は、働く人の健康管理を目指していたが、これからは、リスクマネジメントシステムを活用し、健康管理を通して企業リスクの軽減あるいは、回避を行う必要がある。健康阻害要因として、新たに、社会経済的要因（業務や契約の問題）をも範疇に入れる必要がある。産業保健におけるリスクマネジメントとは、これら健康管理に係るリスクを管理する。そのためには戦略として、ハザードの特定とリスクアセスメント、戦術としてリスクコントロールとリスクファイナンスが必要である。まず、ハザード（リスクの原因となる潜在的要因）を認知し、リスク（大きさ発生確率）を予測する（リスク分析）。次にリスクの許容範囲を評価する（リスクアセスメント）。さらに、リスク対策、リスク保険等のリスク管理を行う。この一連のプロセスをリスクマネジメントとよぶ。過重労働のリスクマネジメントは今日的課題であり、行政の解釈も労働条件等イベント発生のおける6ヶ月前までを評価するとしており、産業医として、過重労働というリスクを個人レベルではライフスタイル、ワークスタイル、組織として、労働衛生管理体制、労働環境、労働時間などの面々から、改善を促すための積極的行動が求められている。

以上、産業保健におけるリスクマネジメントを理解する上で明瞭なご講演であった。

それを受けて、シンポジウム「労働安全衛生マネジメントシステム-産業保健専門職の役割-」が4人のシンポジストを迎えて、宮下和久（和歌山医大）、大脇多美代氏（みずほ銀行）の司会で行われた。引石文夫先生（大阪市交通局）からは、運転業務における睡眠時無呼吸症候群（SAS）を例としたリスクマネジメントのあり方について、島村紘二先生（中災防近畿安全衛生サービスセンター）からは、氏が前職場で携わった松下電器産業における過重労働に対するリスクマネジメントの取り組み、心血管疾患をリスクとして評価する評価法の取り組み等について、鈴木純子先生（日本IBM）からは、IBMというグローバル企業グループにおけるアジアパシフィック地域の一員としての日本企業での労働安全衛生マネジメントシステムの展開について、中前孝雄先生（グローバルテクノ大阪研修センター）からは、品質、環境、安全衛生等、企業リスクをとりまくリスクの回避のためのマネジメントシステムの先進国イギリスの紹介と労働安全衛生マネジメントシステムを含む総合マネジメントシステム構築の必要性について、それぞれ発表がなされた。その後、総合討論に移り、マネジメントシステムの労働者への周知、小企業での取り組みの困難性、システム構築に係るコスト等、活発な議論がなされた。

「労働安全衛生マネジメントシステム
-産業保健専門職の役割-」に参加して

神戸市看護大学 中島美繪子

基調講演に続いて、標記のシンポジウムが、宮下和久先生、大脇多美代先生の司会の下、行われました。シンポジストの引石文夫先生からは新幹線の運転士の居眠りで問題になった睡眠時無呼吸症候群（SAS）に係る健康管理、作業・運転リスク対策を中心にリスクマネジメントについて話され、健康リスクマネジメントのありかたが、SASの予防に大きくかわること、運転士の健康問題と旅客の安全に対して二重に影響を持つことを実感しました。島村紘二先生からは、労働時間の時間管理は自己申告によるので実質時間を出入門時間、問診、健康管理対策などから実状把握を行い健康リスク評価につなげる必要性を学びました。重大性を変数とし、可能性・勤務状態係数・ソフト低減策を係数とする健康リスク評価法については、数値で評価していくマネジメントの知見を得ました。鈴木純子先生からは外資系の企業におけるグローバル ウェルビーイング マネジメントシステムと経営トップの関与、数値目標、実施計画、人を大切にしていることの明示、ナース ケース マネージャーの役割等看護職が積極的に役割を果たしている様子についても紹介され、グローバル スタンドの事例として印象的でした。中前孝雄先生からは英国規格、国際規格をふまえたマネジメントシステムが提示され、品質、環境、労働安全衛生の3規格システムの統合マネジメントのあり方を学びました。

その後、フロアとのディスカッションの中で、「労働安全衛生マネジメントシステムを全従業員がどのようにして共有しあうのか」「全従業員の自覚・参加が必須条件ではないか」「企業の社会的責任の認識として、品質・安全衛生・環境から経営改善のツールとして社会的責任を標準化する必要がある」「導入に際してムチとアメのうち、アメの部分強調するのが有効ではないか」「リスクを予知・予言し具体的な成果をリスクアセスメントの方からあげていくことで普及していくのではないか」「従来からある三管理、五管理との関係はどうか」「認定にともなうコストはいくらなのか、高いのではないか」「KYTとリスクアセスメントの融合は図れないか」「メリット・デメリットをPRしていく必要がある」「ポイントを把握ウェブ教育・新人教育・ライン教育・トップマネージャー教育を地道に行っていくのがよい」「優先順位を明らかにすること」など活発な意見交換・議論がなされ、現場で模索・問題視している状況が伝わってきました。

労働安全衛生マネジメントシステムは、事業場の規模の大小を問わず、労働者の参加を得、行政依存型でなく自主性尊重型で計画、実施、評価、改善の一連の過程を進める中で、労働災害、健康問題等の潜在的危険性の低減、労働者の健康増進、快適な職場環境の形成の促進をはかること等、安全衛生水準の向上に資する新しい自主マネジメント・自主監査の仕組みであると理解していました。今回参加して、予防に取り組むシステム構築技術や、リスクの低減をはかるリスクアセスメントの手法、その結果に基づく管理の実施・技術のあり方など提言や事例が提供され、また活発な質疑応答もあり、具体的に多くの示唆を得ることが出来、わかりやすく有意義なシンポジウムでした。

報 告

第76回日本産業衛生学会に参加して

滋賀医科大学・予防医学講座 北原照代



今年の日本産業衛生学会は、4月23～26日山口市で行われ、一般発表約500題に加えて14研究会から特別報告があり、また特別企画として、メインシンポジウム、特別講演、シンポジウム、受賞者講演、学会長講演、ランチョンセミナー等盛りだくさんの内容でした。ただ、会場が4箇所に分散し参加したいセッションが重なっていたり、会期中雨続きで移動が大変だった事が残念でした(シャトルバスの運行という配慮はありましたが)。今回は子ども同伴の参加となり、行動が例年よりも若干制約されましたが、これまで女性労働者の問題に関心を持ちそれなりの理解をしていたつもりが自分が経験して改めて気づいた事も多く、違う意味で勉強にもなりました。

参加できたセッションを挙げると、自由集会では頸肩腕障害、VDT作業および産業疲労研究会、一般演題では労働生理、人間工学および頸肩腕障害・腰痛、シンポジウムでは「介護労働とリスクマネジメント」(産業衛生技術部会)および「職場における物理的環境の健康問題」でした。どれも興味深い内容でしたが、VDT作業研究会自由集会で行われた「学校のIT環境を考える」を紹介しますと、まず、学校のIT化を巡る国際動向、続いて学校のIT環境調査、そして「児童に優しいコンピュータ使用環境づくりへの取り組み」として、子ども用パソコン機・椅子の開発研究(体格の個人差に対応できるような足台と座面が連動して調整できる椅子の開発)が報告されました。学校現場でIT教育が急速に進められる一方、教育者が人間工学的視点や労働安全衛生の知識を正しく持ち合わせていない状況では、子どもや教員の筋骨格系障害や視機能障害の多発が懸念されます。電磁波や電離放射線のばく露が成長期の子どもに与える影響も無視できません。医学および工学研究者、教育関係者そして機器製造者が共同して取り組むべき緊急の課題であると、作業関連性筋骨格系障害予防を主な研究テーマとする研究者としても、また就学前の子を持つ親としても認識を新たにすることができました。



第10回産業精神保健学会を終えて

第10回産業精神保健学会は、大阪樟蔭女子大学人間科学部心理学科教授の夏目誠を会長として、6月13、14日(金曜、土曜日)の2日間にわたり天満橋にあるエル大阪で「産業現場で役立つメンタルヘルス活動」をメインテーマに、2会場(大ホール、大会議室)を使い開催された。一般演題は37題と多く、活発な討論がなされた。首都圏以外では初めての開催である。650名の多数の人が参加し、盛会のうちに幕を閉じた。通常は300名くらいの参加であり、エポックになる学会という評価をいただいた。

会長講演は「事例で知る職場不適応症の実際」で、特別講演は切池信夫大阪市立大学大学院教授の「増加している働く女性のストレスと摂食障害」という内容で、いずれも好評であった。

次に教育講演1は「ストレスと対応」と題して、吉川武彦前国立精神保健研究所長に、2は「生活習慣病と行動科学的アプローチ」で足達淑子広島国際大学教授に、3は「精神疾患の労災補償の動向、特に過労自殺の労災認定について」を、黒木宣夫東邦大学助教授に報告していただいた。黒木助教授は、過労自殺の労災認定基準の難しさを強調された。

シンポジウム1は「激変する職場環境とメンタルヘルス」で、2は「こころの健康づくり対策の展開ー労働者等のメンタルヘルス対策推進の事業」、3は「生活習慣とメンタルヘルスー事例を中心に」であった。生活習慣病に関してエビデンスに基づいた報告は、多くの産業医の関心を惹いた。4は「産業精神保健で役立つ認知的アプローチ(思考パターン)」で、明日から実践的に職場で活用できる技法の紹介もあり、立見席が出るほどの盛況で、関心の高さが伺われた。

パネルディスカッション1は「産業保健における統合的アプローチー見直そう日々の活動」で、2は「メンタルヘルスにおける産業カウンセラーの役割」、3は「産業精神保健におけるカウンセリング的アプローチ」であり、フロアとの活発な討論がなされた。特に産業カウンセラーの役割は、本学会では初めての試みであったが、連携への関心の高さが伺えた。

いずれにしても失業率が際立って高い関西で、「こころの健康」への関心の高さやメンタルヘルスの浸透度が示された。来年は櫻井治彦慶応大学名誉教授が会長で、東京で開催される予定である。

最後に、協力していただいた企画運営委員の先生方や事務局を努めていただいた日本予防医学協会に、謝意を表す。

(夏目 誠)

報 告

第11回労働衛生法制度研究会

先ず緒方報告では、ドイツの制度紹介が行われた。同国では、産業・地域横断的に定められる協約賃金を最低基準として、可変的な賃金部分、目標管理制度の導入が拡大している。特に、主観的判断を含む「評価(Beurteilung)」に基づく年次プレミアや成績加給等の一般化傾向が著しい。法的には、契約内での撤回権留保が基礎となる。組合は、当初、人格的従属性の強化等を恐れて人事評価制度導入に反対したが、可変部分に集団規制を及ぼすことを目的に、内容交渉に転じた。具体的には、協約や事業所協定による評価基準の整備、特に後者による評価手続・項目の共同決定、可変的賃金部分の最高額の設定、労働の過重性を避けるための健康的な「通常の労働」の設定、等がある。評価制度に対する司法的規制としては、公序等による契約の内容規制、撤回権行使の在り様に対する行使規制があるが、特筆すべきは、労働契約における本来的な労務提供義務の範囲に関する司法判断で、「精神的・肉体的に適度な緊張の下で行われる労働」という基準が立てられている。

対する福田報告では、芸術文化業界で日本の経営を体现する実務家的視点から、(1)人事評価は賃金決定資料としてのみでなく、組織の縦横にわたる重要なコミュニケーションツール、教育資料等としても機能していること、(2)従って、評価の種類には、業績・能力評価と共に「相性」の評価も含まれること、(3)良質な企業は人材質こそが経営の根幹であり、経営者には、悪しき人事評価制度は経営自体を悪化させる、というモラルがあること、(4)従業員にはそもそも職人気質があり、仕事は個人のアイデンティティーである。特に現代の若手社員はやりがいのある仕事を給与水準に関わらずに求めていること、(5)そうした社員の志気を高めるため、経営でも積極的に参加型決定を採用していること、(6)仕事のできる人間ほど社内で裁量性の高い作業を行う権利を得、そうした社員の労働時間管理は「みなし制」となっていること、(7)採用は原則、契約社員として行い、段階的に正社員への登用が図られていること、等々が述べられた。

討論では、福田報告の一般的適用範囲、労基法等の規範の適用可能性、過労死事件の考え方、等について活発な意見交換がなされた。

(文責：三柴)

事務局変更のお知らせ

代表者：西山勝夫

事務局：滋賀医科大学予防医学

〒520-2192 大津市瀬田月輪町

TEL：077-548-2187 FAX：077-548-2187

E-mail：nisiyama@belle.shiga-med.ac.jp

お知らせ

ケースカンファレンス研修会

研修内容：グループ討議によるケースカンファレンス
参加者が積極的に討議を行うことが必要です
事例) 職場のメンタルヘルスに関して(メ)

職場巡視に関して(巡)

カリキュラム：(メ)生涯研修(実地研修)：(3)2単位
(巡)生涯研修(実地研修)：(7)2単位

受講資格：日本医師会認定産業医

定員：各回40名

受講料：無料

実施場所及び日程(いずれも14:00~16:00)

地域	開催日[受付開始日]	会場	事例
大阪中央	15年6月18日(水) 【15年5月6日(火)】	大阪産業保健推進センター	(巡)
大阪南	15年7月17日(木) 【15年5月6日(火)】	大阪産業保健推進センター	(メ)
天満	15年8月21日(木) 【15年6月23日(月)】	大阪産業保健推進センター	(巡)
大阪西	15年9月18日(木) 【15年6月23日(月)】	大阪産業保健推進センター	(メ)
西野田	15年10月15日(木) 【15年8月18日(月)】	大阪産業保健推進センター	(巡)
淀川	15年11月27日(木) 【15年9月29日(月)】	大阪産業保健推進センター	(メ)
岸和田 泉大津 堺	15年12月4日(木) 【15年10月6日(月)】	堺市医師会館	(メ)
羽曳野 東大阪	16年1月22日(木) 【15年11月17日(月)】	布施医師会館	(メ)
北大阪	16年2月12日(木) 【15年12月8日(月)】	大阪産業保健推進センター	(巡)
茨木	16年3月17日(水) 【16年1月5日(月)】	茨木市保健医療センター	(巡)

問い合わせ先：大阪産業保健推進センター

〒541-0053大阪市中央区本町2-1-6

堺筋本町センタービル 9階

TEL：06-6263-5234

FAX：06-6263-5039

医療法人あけぼの会 EAP協会会員
メンタルヘルスセンター
TEL:06-6322-0030 / FAX:06-6321-4107 / E-Mail: mental@akebonokai.or.jp
EAP(従業員支援プログラム)で心の健康をサポートします。

あけぼの会グループは、人間性に根ざした
一人ひとりの Quality of Lifeのための
医療サービスを実践しています。

EAP
あけぼの会グループ
〒520-0031 大津市瀬田月輪町2丁目16番5号
小林胃腸クリニック(診療部門)
TEL:06-6322-2450/FAX:06-4231-6752
ハルスウェイセンター(健診部門)
TEL:06-6321-0170/FAX:06-6321-0127

<http://www.akebonokai.or.jp>

お知らせ

第13回 産業医・産業看護全国協議会

メインテーマ：多彩な健康管理の課題と展望

日 時：平成15年10月17日(金)・18日(土)

会 場：アクトシティ浜松

プログラム：17日

12：15～16：00

施設見学①(社)静岡県産業環境センター都田研究所

(株)環境衛生研究所

②本田技研工業(株)浜松製作所

③(社福)聖隷福祉事業団

④ヤマハ(株)

いずれかに参加できますが、人数制限があり参加希望を募ります。定員になりしだい締め切りますのでお早めに申し込み下さい。参加者には参加証を事務局から送付します。(①②④コースは、日本医師会認定産業医実地研修2単位申請予定です)

16：20～17：30

特別講演「緑茶とがん予防」

～健康づくり・疾病予防に役立つ
産業医・産業看護職のために～

17：45～19：15

ワークショップ

①産業保健における職域と地域のネットワークを考える

②産業口腔保健の現状と課題について

プログラム：18日

10：15～11：45

特別報告①災害における産業医の役割

②深夜業・夜勤交代勤務者の健康生活への
支援

12：00～13：00

ランチョンセミナー

①歯周病と全身疾患との関係について

②インターネット食事指導による生活習慣病の改善

人数制約があり参加希望を募ります。定員になりしだい締め切りますのでお早めに申し込み下さい。参加者には参加証を事務局から送付します。

13：00～14：10 (発表)

ポスターセッション

14：30～16：30

メインシンポジウム「これからの産業保健専門職と産業保健活動」

日本医師会認定産業医単位取得研修、日本産業衛生学会産業看護継続教育単位認定研修です。(申請中)

参加費：学会員 6,000円(8月31日まで)

7,000円(9月1日以降)

非学会員 8,000円

懇親会費：6,000円

事務局：〒430-0906 静岡県浜松市住吉2-35-8

聖隷健康診断センター内

第13回産業医・産業看護全国協議会事務局

TEL：053-473-5501 FAX：053-474-2505

その他詳細は、産業衛生学雑誌 45巻 3号参照

近畿産業看護部会平成15年度研修会

1. 平成15年度 特別研修会

(1)SARS (重症急性呼吸器症候群)について

日 時：平成15年7月26日(土) 14：00～15：30

場 所：大阪産業保健推進センター

講 師：大阪労働衛生総合センター所長 杉田 隆博

資料代：会員 1,000円 会員外 1,500円

申込先：大阪産業保健推進センター

FAX：06-6263-5039

(2)「感染症」について

平成15年12月予定

2. 平成15年度近畿産業看護部会研修会

メインテーマ「メンタルヘルス」

第1回 「職場におけるリラクゼーション、ストレスチェックの実際」

日 時：平成15年8月19日(火) 14：00～16：00

場 所：大阪府立ドーンセンター

講 師：臨床心理士・産業カウンセラー 戸田 玲子

会 費：無料

申込先：大阪産業保健推進センター

FAX：06-6263-5039

第2回 「傾聴法」

平成15年9月実施予定 調整中

第3回 「面接技術」

平成16年2月実施予定 調整中

お知らせ

産業衛生講座

1. 講習会

1) 第22回

日時：平成15年8月23日(土) 13:30~16:30

講演：I. 事業場の感染症対策

講師 西尾 久英(神戸大)

II. 産業保健専門職のための生命倫理

講師 浅井 篤(京都大)

申込受付開始日：7月1日(火)～

2) 第23回

日時：平成15年10月25日(土) 13:30~16:30

講演：I. 事業場における作業環境管理

講師 増田 安民(松下電器産業(株))

II. THPの取り組みにおける現状と課題

講師 原 俊之(三菱重工業(株))

申込受付開始日：9月1日(月)～

3) 第24回

日時：平成16年3月6日(土) 13:30~16:30

講演：I. 職域における生活習慣病と健康教育

講師 広部 一彦

(みずほフィナンシャルグループ)

II. 有機溶剤による健康障害とその予防

講師 郷司 純子(兵庫医大)

申込受付開始日：平成16年1月5日(月)～

(会場は、いずれも大阪市立大学医学部学舎)

●受講料 講習会 未登録者：6,000円(テキスト代込み)
登録者：2,000円

●定員 270名(先着順)

●日医認定産業医制度研修会

基礎(後期)/生涯(専門) 3単位(申請中)

2. 実地研修会

1) 大阪産業安全技術館

日時：平成15年8月21日(木) 14:00~16:00

9月11日(木) 14:00~16:00

内容：作業環境管理

講師：荒井 喜久男(大阪産業安全技術館)

申込受付終了

2) 新日本製鐵株式会社 堺製鐵所

日時：平成15年10月24日(金) 14:00~16:00

内容：職場巡視と討論

講師：辰巳 佳次(新日本製鐵(株))

申込受付期間：8月4日(月)～8月15日(金)

3) 三洋テレコミュニケーションズ株式会社

日時：平成15年11月6日(木) 13:30~15:30

内容：職場巡視と討論

講師：廣田 昌利(三洋電機)

申込受付期間：8月4日(月)～8月15日(金)

4) 三菱重工業株式会社 神戸造船所

日時：平成15年11月12日(水) 14:00~16:00

内容：職場巡視と討論

講師 原 俊之(三菱重工業(株))

申込受付期間：8月25日(月)～9月5日(金)

●受講料 3,000円(事前振込制)

●定員 50名(先着順)

●日医認定産業医制度研修会

基礎(実地)/生涯(実地) 2単位(申請中)

【申込方法問い合わせ先】

実行委員会事務局 FAX:06-6266-2181

(丸紅健康開発センター内)

働く人々への健康支援フォーラム

日本産業衛生学会産業医部会共催

第2回 一生活習慣病を克服するには一

日時：平成15年9月25日(木)13:30~16:30

会場：大阪朝日生命ホール(大阪)

内容：基調講演Ⅰ 『最近のエビデンスからみた
生活習慣病の治療指針』

パネルディスカッション 『健康づくりの具体策』

日医認定産業医基礎(後期)/生涯(専門) 3単位(申請中)

一仕事と生活習慣病一

日時：平成15年9月25日(木) 13:30~16:45

会場：グランドハイアット福岡(福岡)

内容：基調講演Ⅰ. 『これからの労働と健康』

基調講演Ⅱ. 『働く人々の血圧管理』

パネルディスカッション 『働く人と睡眠時無呼吸症候群』

日医認定産業医基礎(後期)/生涯(専門) 3単位(申請中)

一至適労働環境確保のために(仮)一

日時：平成15年9月3日(水)13:30~16:30

会場：グランドアーク半蔵門(東京)

内容：基調講演Ⅰ. 『過重労働による健康障害防止
の為の対策について』(仮題)基調講演Ⅱ. 『頭痛を持つ勤労者ケアの重要性』
(仮題)

パネルディスカッション 『職場における喫煙対策-禁煙/分煙』

日医認定産業医基礎(後期)/生涯(専門) 3単位(申請中)

いずれも参加費は無料です。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい。

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル
ファイザー製薬(株)情報企画部

TEL:03-5309-6153 FAX:03-5309-9861

会員の声



私の産業保健活動

兵庫医科大学
公衆衛生学

郷 司 純 子

私が産業医になった当時の課長と（私の）ライバルの主任はとても優秀な作業環境測定士でした。パトロールの際には、彼らと他2、3名の衛生管理者、現場の安全衛生スタッフと一緒に工場を巡回しました。ライバルの主任は、現場の状況、測定結果、有害物質の説明などきちんと教えてくれました。いつか、主任と同等の知識をもってパトロールできるようになることが私の目標であり、主任は最強のライバルで最も信頼できる仲間でした。恩師である三菱神戸病院名誉院長土屋先生も、我々産業医は作業環境測定士、衛生管理者の方に育ててもらったといつもおっしゃいます。

以前の職場は、大型機器を製造していましたので、垂直はしごや数十メートルの階段ののぼりおり、炎天下での巡視のために、握力や体力を鍛えることも必要でした。今は、カルシウム製造と塗料製造中小企業の嘱託産業医をしています。あまり、体力はいりませんが、設備面での予算も会社の考え方も以前とは異なり主任のような専門家もいないので、私の中で精いっぱい自問自答を繰り返しながら巡視しています。

また、現在、カドミウムと有機溶剤ばく露の実験を開始しました。産業現場で感じた疑問を実験系にうつし、納得のいく解答を見つけていきたいと考えています。有機溶剤ばく露の研究では、ラットにアルコールを飲ませています。ラットでもアルコール好きのラットと嫌いなラットがいるので、ALDH2などの遺伝子多型も考慮して実験系を組みました。

これから、私と産業保健の長いつきあいが始まるかと思えます。学会の諸先生方にはこれからもご指導よろしくお願いたします。



現実的に、ヒトではどうなのか

(財)近畿健康管理センター
労働科学研究所主席研究員

村 田 和 弘

私は山菜（わらび）が好物です。これまでは、わらびを食べながら、わらびの発がん性が頭をかすめ、おいしさが半減していました。しかし、最近、わらびを食べるがんになるには、毎日リュック一杯のわらびを食べなければならないことを知り、わらびの発がん性の不安感は、まったくなくなり、わらびを美味しくいただいています。

多くの食べ物、化学物質について、発がん性等の有害性情報が氾濫していますが、ほとんどの場合、ヒトでの量～影響関係が不明であり、少なくとも、発がん性等の有害性が認められた動物実験での、ヒトに換算した物質の投与量等について、できれば、実験動物とヒトとの種差についての情報を知りたいものです。

外部より必ず摂取しなければならないミネラルなど、必須の栄養素であっても、過剰に摂取すれば、過剰症や

過剰症状が生じ、薬も投与量によっては毒となります。例えば、種差に関する情報が不十分であっても、動物実験でのヒトに換算した投与量が、ヒトに対して現実的な量なのかどうかを知るだけでも、無用な心配がなくなるケースが多くあるものと思われます。

最近、有害性に関する研究は、個人の感受性を重視した遺伝子レベルでの研究が盛んになってきていますが、対象はごく一部の物質に限られており、また将来、これらの研究結果を現実的に、産業現場に容易に活かせるものかどうか疑問に思うことが多々あります。

産業界で使用されている化学物質は、5万種類を超え、さらに毎年500～600種類の化学物質が新たに導入されていますが、ヒトに対する明らかな有害性情報は、一部の物質に限られています。自然界に存在しない人工化学物質は、ヒトにとって異物であり、ばく露（摂取）量等によっては有害物質になると考えられます。

このような状況下で、将来ともヒトが安心して働ける産業職場をつくるには、一部の物質の限られた有害性情報に捕らわれることなく、人工的な化学物質に対し、取り敢えず、有害性情報に関わりなく、できるだけばく露（摂取）量等を抑制するなど、一般的な予防対策を講じ、次にヒトに対する有害性の知見に基づき、現実的な予防対策を講じることが望まれます。

会員の声



産業看護職のチームワークについて

(株)ワールド人事部
統括産業医

中嶋千晶

昨年、念願のJOSLIN DIABETES CENTERで、1ヶ月の研修を受ける機会に恵まれた。インスリンの発見以前からの歴史をもつCLINICで、ハーバード近郊のLongwood Medical and Academic Areaに位置する。糖尿病教育の歴史も長く、現在は外来3日間の、DOIT (Diabetes Outpatient Intensive Treatment) プログラムが毎週開催されており、ボストン近郊のみならず、ニューヨーク、サンフランシスコからも患者が参加されていた。DM専門医のチーフの下、内科レジデント、CDE (Certified Diabetes Educator) の資格を有する栄養士、看護師、PHYSIOLOGIST、SOCIAL WORKERによるチームがとても効率よく連携を取りながら、教育のほか3日間で、合併症の評価、治療内容の再検討まで実施し

ていた。DOITプログラムでは、教育の殆どは、医師以外の担当で、ポンプ治療の指導も栄養士が実施しておられた。これらのスタッフが聞き取る情報は必ず医師の下に集約され、治療内容検討にすぐに活かされていた。

医師の外来は、ほぼ6ヶ月に1回の受診間隔のため、初診はひとり60分、再診30分で、糖尿病に関わる生活についてじっくり話を聞くことができていた。日頃の血糖コントロール状態については、患者さんがしっかりと自分の病状を把握し医師の質問に答えていた。NURSE PRACTITIONERの診察もあり、定期的な生活指導やインスリンの見直しなどがされていたが、あらたに治療を要する問題の生じたときは、速やかに当番の医師と相談し、患者さんにフィードバックされていた。

最近、嘱託産業医の先生方の講習をさせて頂いたが、産業看護職のおられない職場が結構多いことに驚いた。日頃、専属産業医として、衛生管理者、産業看護職、トレーナー等、チームで健康管理にあたることのできる立場をととても有難い事だと思った。と共に、アメリカの経験から、主役である患者さん(社員)を中心とした、各スタッフ間の連携の重要性を痛感した。生活習慣病予防のニーズが高まる中、この恵まれた環境を活かして、今後も効率的な行動変容支援に向けて研鑽を積みみたいと思っている。



心の健康づくりの支援者をめざして

三菱電機(株)
伊丹・赤穂地区統括事務所
看護師

小淵啓子

近年、経済・産業構造の変化、日本型雇用慣行の変化、高齢化の急速な進展等、労働者を取り巻く職場環境は厳しいものになっています。それに対し産業保健の現場の健康管理も早期発見・早期治療の二次予防から、心と体の健康づくりの一次予防へと大きく変化しています。

その対策として、厚生労働省は平成12年に「事業所における労働者の心の健康づくりのための指針」を公表しました。健康相談も、社会的・精神的ストレスが原因と思われる内容に変化し、相談数も増加しています。

従来の病気の相談は、予防や治療の情報を適切に提供し、本人の実行が伴えばよい結果が期待できました。しかし、「心の悩み」に対しては、情報や知識の提供だけでは解決は難しく、対応する私の知識と経験、技能不足を常々痛感していました。色々なメンタルヘルスの研修を受講するも、要領を会得するに至らず、何か私自身消化不良を感じていました。

昨年、初級産業カウンセラーの養成講座を受講する機会を得ました。講座のカリキュラムは、理論と実技からなり各々80時間の合計160時間で構成されています。理論は産業カウンセリング概論、カウンセリングの原理及び技法、パーソナリティ理論、職場のメンタルヘルス等と広範囲に編成されています。実技はカウンセリング演習でロールプレイ形式中心に行われます。十分に時間を

とり、「カウンセリングとは何か」を会得できるよう計画されています。また在宅研修として、作文、小論文、対話分析などがしっかりと用意されています。

養成講座は水・土・日曜日の3コースが設定されており、定員は1コース100名です。期間は4月から10月で回数は20回となっています。

受講者の年齢は、20歳代から60歳代と幅広く、内訳は産業保健領域を中心に、人材ビジネスで職業紹介に携わる人達、企業の人事や労務・教育担当者、ラインの管理職、会社経営者等と驚く程多くの職種の方がおられました。それだけ、メンタルヘルス対策が喫緊されているということだと実感しました。

基本的な理論では、特に積極的傾聴を重視するロージャースの来談者中心療法に興味を持ち学びました。また、職場をめぐる労働関連領域の諸理論は、産業の場で直に活かせる内容でした。実技演習は、10回を超え非常に印象深いものでした。この演習は相談者が生の自分の悩みを相談するライブ法と役割を演じるロールプレイ法があります。真実の自分を話すのは自己開示であり、かつて無い新鮮な体験でした。同時に、相談する側と相談を受ける側の二人が5~6人のメンバーの前で順番にロールプレイを行い、各々の観察者の率直な評価が非常に参考になりました。異業種の人達の面談を直に聴けたことは、学ぶ点が多く、自分との面談の違いを知る、またとない機会で自分の色々な癖やスタイルを発見することができました。

その結果、相談者の悩みは自分一人で引き受けず、気負わずに「聴くことに集中」、心から「共感」する。それを繰り返すうちに相談者自身が自己理解から自己決定へと進むことができるような支援者をめざしていこうと考えています。

また、異業種に多くの新しい友人が持て、カウンセリングを深める会を作れたことは嬉しい副産物となりました。

近畿の産業保健活動—和歌山県—

産業保健活動について



和歌山県医師会産業保健担当理事 寺下 浩彰

地方会ニュースへの投稿は今回で3回目ということになります。第1回目は平成12年7月号で、「和歌山産業保健推進センター開設について」、第2回目は平成14年1月号で「和歌山県医師会と産業保健推進センターとの連携について」述べました。今回は、本年2月22日に開催された、第30回和歌山県産業保健講習会について述べてみたい。

標記のとおり、今回、30回目（30周年）を迎えるにあたり、「30年間の労働衛生活動の歩みと今後の展望」と題して、シンポジウムを企画し、種々の立場で、労働衛生活動に長年ご尽力をいただいた方々、また現在もご活躍の方々をシンポジストとしてお招きし、夫々の立場からの、ご意見をお聞きする機会をもつことが出来ました。

本講習会は、昭和48年の和歌山県医師会産業医部会設置を受けて、翌昭和49年1月19日、第1回を開催し、今日まで、毎年開催され、今回、節目となる30周年を迎えました。今年の講習会では、永年勤続産業医11名、永年勤続衛生管理者5名を表彰した後、シンポジウムを開催した。まず、基調講演で、私の前任の元和歌山県医師会産業保健担当理事中村淳一先生が、県医師会の立場から、「30年間の労働衛生活動の歩みと今後の展望」について、お話をされました。昭和51年には、第1回の産業医実態調査を行ったこと、昭和53年には、和歌山に多い振動障害を対象とした振動障害対策委員会をいち早く発足させたこと、昭和56年には、和歌山県産業保健活動推進協議会発足、同年振動障害実態調査を実施、昭和60年にはメンタルヘルスケア研修会を開催、昭和62年には、和歌山県産業医活動指導者養成研修会（リーダー研修）を実施し参加者が27名であったこと、平成元年には産業医基本研修、リフレッシュ研修、特定科目専門研修を実施、平成3年以降、これらの研修が日医認定産業医の資格取得のための研修単位となったこと、平成5年の田辺地域産業保健センター設置をかわきりに、県下6ヶ所の地域産業保健センターの設置がすすめられ、平成12年の和歌山産業保健推進センター設置へとつながったこと等をお話いただいた。

行政の立場から、和歌山労働局労働基準部安全衛生課長牧山秀士氏が、労働基準行政も時代の変化にともなって、職業性疾病対策の時代から、労働者の健康確保或いは、健康増進へと変わってきており、指導、監督する行政から、事業所の自主的活動の促進を援助する行政へと変化しつつあることを話され、今後の産業保健活動のめざすべきところを示された。

大学の立場から、武田真太郎和歌山県立医科大学名誉教授が労働衛生行政の歩み、と県立医大の産業保健活動を通じての地域社会とのかかわりについて述べられた。地場産業での振動障害に対する取り組み、有機溶剤ばく露と健康影響についての研究から、快適職場推進への取り組みと、時代の移り変わりと共に産業保健活動も変化していることを示された。

衛生管理者の立場から(財)和歌山健康センター生田善太郎氏が事業所内での衛生管理者の立場から、衛生管理者の活動の難しさ、活性化に向けての問題点、衛生管理者間のネットワーク強化の必要性、和歌山衛生管理者交流会の現状について述べられた。

産業保健関係機関の立場から(社)和歌山県労働基準連合会専務理事の上野修身氏が衛生管理体制の確立と事業者の責務について述べられ、企業における労働衛生管理体制は、衛生管理者の選任、衛生管理者の定期巡視と権限の付与、産業医の選任、事業者に対する勧告権、事業者の勧告尊重の義務等が法文化されてきたが、労働安全管理に比べると労働衛生管理は、まだまだ遅れているとの指摘があった。

このような貴重なご意見を頂き、和歌山県医師会としては、時代の変化に対応して、和歌山県産業保健推進協議会での協議を通じて、関係諸機関のご協力を得ながら、県下の産業保健活動のよりいっそうの活性化に向けて、先輩諸氏のご努力に負けない活動を展開して参りたいと考えて居りますので、皆様方の、倍旧のご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

第30回和歌山県産業保健講習会次第

和歌山県医師会
主催 和歌山労働局
和歌山県労働基準連合会

日時 平成15年2月22日(土) 14:00
場所 JAビル 5階 大会議室

- | | | |
|---|---|-------------------------|
| 1. 開会 (14:00) | 和歌山県医師会理事 | 寺下 浩彰 |
| 2. 挨拶 (14:00~14:20) | 和歌山県医師会会長
和歌山労働局長
和歌山県労働基準連合会長 | 久雄 登臣
小泉 博樹
片山 良樹 |
| 3. 祝辞 (14:20~14:25) | 和歌山県知事 | 木村 良樹 |
| 4. 永年勤続産業医、衛生管理者表彰 (14:25~14:50) | | |
| 5. シンポジウム (14:50~17:30)
「30年間の労働衛生活動の歩みと今後の展望」 | 司会:和歌山県医師会理事 | 寺下 浩彰 |
| ○基調講演 | 演者:日本労働安全衛生コンサルタント会和歌山支部長
元和歌山県医師会産業保健担当理事 | 中村 淳一 |
| ○討論 | 発言者 | |
| 1 「行政の立場から」 | 和歌山労働局安全衛生課長 | 牧山 秀士 |
| 2 「関係機関の立場から」 | 和歌山県労働基準連合会専務理事 | 上野 修身 |
| 3 「衛生管理者の立場から」 | 財和歌山健康センター事務局長 | 生田 善太郎 |
| 4 「産業医の立場から」 | 日本労働安全衛生コンサルタント会和歌山支部長 | 中村 淳一 |
| 5 「大学の立場から」 | 和歌山県立医科大学名誉教授 | 武田 真太郎 |
| 6. 閉会 (17:30) | | |

議事録

平成15年度第1回幹事会議事録

日時：平成15年5月31日（土）11：10～12：10
 場所：大阪市立大学医学部学舎 18階会議室
 出席：堀口 植本 藤木 圓藤 河合 河野 小泉
 宮下 車谷 山田 日高 上田進 大脇 長澤
 清田 原 住野 大東 石山
 欠席：岡田 杉本 西村 道辻

(敬称略順不同)

1. 物故会員の報告
 圓藤理事より報告（総会議事録参照）
2. 議題
 - (1)平成14年度事業報告
 圓藤理事より報告
 - (2)平成14年度決算報告（監査報告）
 圓藤理事より報告
 原監事より監査報告
 - (3)平成15年度事業計画（案）
 圓藤理事より報告
 - (4)平成15年度予算（案）
 圓藤理事より一部訂正箇所の説明と報告
 - (5)第43回近畿産業衛生学会進捗状況について
 学会長の井口弘兵庫医大教授より報告
 - (6)第44回近畿産業衛生学会開催について
 滋賀県が予定地であるので、杉本幹事を中心に協議決定する
 - (7)その他
 西山評議員より、会長宛に送付されている5月号
 地方会ニュースに同封した「謹告」についての意見書について審議

平成15年度第1回評議員会議事録

日時：平成15年5月31日（土）12：20～12：50
 場所：大阪市立大学医学部学舎 4階小講義室2
 出席者：38名（委任状40名含む）

1. 評議員会成立の確認
 現在の評議員数 113名（5月29日現在）
 出席38名（委任状40名）
 （現在数の過半数の出席により成立・地方会会則第13条）
2. 開会
3. 物故会員の報告
4. 議長選出 佐野 敦先生（松下電子部品(株)本社）
 を選出
5. 議事
 幹事会議事録（1）から（6）を参照
 西山評議員より、平成13年度理事長選挙に関する
 幹事会への質問がなされたが、総会で審議することにされた
6. 閉会

会員の異動（平成15年4月1日～4月30日届出分：届出順）

退会

山本 博治	中村 あけみ	畠中 孝子
井関 郁夫	平田 亜紀子	西牧 謙吾
前田 龍一	端野 博康	田村 浩
濱中 良郎	山本 久生	大草 純子
内海 久隆	大隅 喜代志	森重 米藏
坂口 勝	河田 啓行	宮入 昭午
岡村 富造	斉藤 博子	広田 善彦
杉本 真	川田 祐子	二階堂 敏勝
小畠 隆司	小畑 優子	八十嶋 晶
饗庭 直人	磯田 優子	橋 久美
木村 絹子	森川 あけみ	中西 章介
川辺 りみ子	宮原 敦子	本比田 眞百美
檜木 道弘	中澤 浩子	山下 チヨ子
南 俊之介	松村 あゆみ	

入会

佐伯 圭吾（十津川村国保小原診療所）
 吉田 宗平（関西鍼灸短期大学）
 戸村 多郎（関西医療学園専門学校）

所属変更

辻 順子（りそな銀行 医務室）
 田崎 慎子（(有)悠久の風）
 吉野 成泰（吉野眼科：四国地方会より）
 住田 竹男（N T T西日本関西健康管理センタ）
 小澤 秀樹（(株)ユー・エス・ジェイ人事部）
 米加田 啓介（神戸労災病院）
 小田 瑞穂（住友鋼管(株)関西事業所 大阪）
 松本 宏（大阪医科大学・麻酔科）
 縄本 ひとみ（京都教育大学保健管理センター）
 野網 祥代（倉敷中央病院眼科：中国地方会へ）
 新楽 実（松下住設機器(株)健康管理室退職）
 野島 玲子（国土交通省近畿地方整備局総務部厚生課）
 龍田 悦子（参天製薬(株)健康支援室）
 安部 倫子（参天製薬(株)健康支援室）
 山本 智徳（三菱重工業(株)神戸造船所衛生・放射線管理課：九州地方会より）
 細川 幹夫（四国地方会より）
 山中 佳子（参天製薬(株)滋賀工場）
 岡本 裕子（旧姓：神崎裕子）
 北村 栄作（(株)クボタ本社診療所）
 酒井 直道（川崎重工業(株)神戸工場保健診療所退職）

健康社会をぞめとして
 日本予防医学協会
 日本予防医学協会 <http://www.sunnet.or.jp>

本部 東京都江東区扇橋 1-21-25 TEL 03-3649-3651
 東日本支部 東京都江東区扇橋 1-21-25 TEL 03-3649-6111
 関西支部 大阪市北区西天満 5-2-18 TEL 06-6362-9041
 西日本支部 福岡市博多区博多駅前 3-19-5 TEL 092-473-0547
 名古屋出張所 名古屋市東区代官町 39-18 TEL 052-931-0526
 茨城連絡事務所 茨城県鹿嶋市大字光 3 TEL 0299-82-7736

お知らせ

第43回近畿産業衛生学会演題募集のお知らせ

主催 日本産業衛生学会近畿地方会
 学会長 井口 弘 (兵庫医科大学衛生学)

1. 開催日時と場所

日時：平成15年11月8日(土) 9:30~17:00(予定)
 会場：兵庫医科大学 3号館、他(兵庫県西宮市武庫川町1-1)
 (阪神電車本線 大阪梅田駅から急行で20分弱の武庫川駅下車、神戸側改札口を出て徒歩5分)

2. 演題募集要項

申込み締切日：8月31日(日) 必着
 申込み要領および発表準備について

- ①同封の演題申込用紙に演題名、発表者名、所属、簡単な要旨、連絡先等を記入し、学会事務局宛申し込んで下さい。下記ネット上の書式を用いた電子メール添付文書での申込みも歓迎します。
- ②申込み受理後、学会事務局から「抄録用原稿用紙」(A4縦)を送付します。
- ③抄録原稿の締切りは9月30日(火)(こちらは郵送物のみの受付)、完成抄録集は当日配布の予定です。
- ④教材提示装置(オーバーヘッドカメラ：OHC)と液晶プロジェクター(PowerPointなど)が使用可能です。
- ⑤1演題12分(口演7分、質疑5分)の予定です。

3. プログラム(予定)

午前：一般演題、昼休み：幹事会および評議員会
 午後：特別講演

「化学物質の曝露評価」 講師 河合俊夫 中災防大阪センター副所長

「化学物質によるヒトの発がん」 講師 佐藤茂秋 兵庫県立加古川病院長

シンポジウム：

「不況下における企業労働者のメンタルストレス-過重労働、自殺、過労死-」

守田嘉男 兵庫医科大学精神科 教授

三脇康生 京都大学医学研究科 医師

藤原精吾 あいおい法律事務所 弁護士

4. その他

- ・日本医師会産業医研修の単位認定(基礎研修(後期)または生涯研修(専門)の3.5単位)を申請中
- ・日本産業衛生学会産業看護職継続教育(実力アップコース)単位認定を申請中
- ・学会参加申し込みは学会当日受付いたします。(事前申し込みは必要ありません。)
- ・学会参加費 日本産業衛生学会の学会員2,000円、非学会員3,000円
- ・プログラム終了後、医大10号館10階で懇親会(会費3,000円程度)を予定しています。

5. 学会事務局(演題申込先及び問い合わせ先)

〒663-8501 西宮市武庫川町1-1 兵庫医科大学衛生学(9号館4階)
 第43回近畿産業衛生学会事務局 和田 安彦 (TEL: 0798-45-6563)
 TEL/FAX: 0798-45-6562 e-mail: hygiene@hyo-med.ac.jp (事務局用)
 URL: <http://www.hyo-med.ac.jp/157.html/> (最新のお知らせ、書式、設備詳細等を掲載予定)

編集後記

富山で開かれた日本糖尿病学会のシンポジウムのひとつは「一次予防」であった。この数年間の研究により、ライフスタイル改善による2型糖尿病の予防は科学的な根拠を持った。ハイリスク者の同定・介入法の有効性も研究のレベルを離れたと思われる。これらの成果の実践には、糖尿病に限らないメンタルをも含む集団への戦略的健康増進策が必須であり、「健康増進法」「健康日本21」を活用したシステム造りが早急に求められている。しかし、現場での取り組みとその成果にはまだ時間が必要なようである。地方会総会シン

ポジウムの労働安全衛生マネジメントシステムの講演を聴きながら、対象・方法論は異なるものの今後の課題を実感した。(日高)

編集委員(五十音順)

大東正明、大脇多美代、岡田章(編集責任)、
 車谷典男、杉本寛治、日高秀樹、道辻広美、山田誠二

次回発行日 2003年10月15日
 (原稿締切日 2003年8月31日)